

持続可能な「ふくし社会」を創る ふくし・マイスター News

ふつうのくらしのしあわせをつくりだす 「ふくし・マイスター」を目指そう！

■日本福祉大学COC中間成果報告フォーラムを開催しました。

9月8日(金)、東海キャンパスにて日本福祉大学COC中間成果報告フォーラムが開催されました。

本学は、2014(平成26)年度より、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受け、本年度で4年目を迎えています。

本学が目ざす「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」をテーマとし、第I部では「『ふつうのくらしのしあわせ』をつくる、『わたし発のふくし』へ」と題し、原田正樹教授の基調説明と「日本福祉大学における地域連携教育の実践」で本学7学部の教員・学生による活動報告を行いました。



【社会福祉学部】
教員：渡邊忍教授
学生：鈴木拓也、中村真穂(3年)、成田冬也(4年)



【子ども発達学部】
教員：江村和彦准教授
学生：鷲見俊哉、山中春香(4年)



【スポーツ科学部】
教員：三井利仁准教授
学生：島田花(1年)



【健康科学部】
教員：坂口大史助教
学生：高岡遥樹(4年)、塚田佑弥(3年)



【経済学部】
教員：後藤順久教授
学生：角谷達則(2年)



【国際福祉開発学部】
教員：吉村輝彦教授
学生：町野紗希衣(3年)



【看護学部】
教員：水谷聖子教授
学生：北村萌香、神山くるみ、坂山里奈、山田智子、渡邊鈴奈(3年)



【シンポジウム】
コーディネータ：千頭聡(地域連携推進機構長・教授)
大学関係者：佐藤大介(全学教育センター助教)
行政関係者：芦原伸幸(東海市企画政策統括主任)
地域関係者：市野恵(NPO法人地域福祉サポート知多理事)
地域関係者：大崎暁美(2015年度市民研究員)

COC中間成果報告フォーラムには、地域住民の方、行政、社協、NPO、企業の方、学校関係者、学生と100名を超える大勢の方に参加していただきました。

地域住民の方から活動地域の要望や学生の地域活動に対する更なる期待の声を頂きました。

今後も大学と地域との連携をさらに深め、教育の質の向上と大学の地域貢献に取り組んでまいります。

社会福祉学部

春季セミナーで知多半島を中心に各地でフィールドワークを開催



岩滑地区を案内するのは、ゴミ収集の活動や自主防災の活動をしている岩滑区長の炭谷重則さん

5月14日(日)、15日(月)、に社会福祉学部の1年生全員が参加する春季セミナーが行われました。1日目には、知多半島を中心にクラスに分かれてフィールドワークが実施され、事前学習で学んできた地域を観る視点を活かして、地域を知り、地域に触れて、地域を学ぶ実践を行いました。多彩なコースは地域連携コーディネーターや教職員で企画され、半田市の8コース、東海市の3コース、知多市の3コース、武豊町で2コース、高浜市の1コースの計18コースで行われました。

※春季セミナーは、1泊2日の宿泊型セミナーで、毎年入学後まもなくした時期に行われています。導入教育として「読む」、「書く」、「話す」の学習の基礎リテラシーを育み、仲間づくりなど複数の目的のため、社会福祉学部では1年生が18クラスに分かれて研修に参加します。

経済学部

「地域社会と共生」を通じて、東海市のまちづくりを知る

「地域社会と共生」(担当:後藤順久教授)の講義では、身近な地域社会の強みと課題を知り、4年間の学びを組み立てていきます。4月17日(月)、東海市企画部企画政策課の芦原伸幸さんをゲストスピーカーとして招き、「東海市のまちづくり」について学びました。現在の東海市の姿として、地理、産業、人口推移、郷土の偉人、農業、姉妹都市などについて学んだのち、「第6次東海市総合計画」について説明を受けました。東海市は、将来の都市像を「ひと夢 つなぐ 安心未来都市」とし、東海市総合戦略を掲げ、6つの項目について重点的に取り組んでいます。この東海市総合戦略を学んだあと、太田川駅前周辺が賑わうことを目標に戦略を立てるグループワークを行いました。



ゲストスピーカー 東海市企画部企画政策課 芦原伸幸さん

東海市総合戦略
6つの重点項目

- ①地域活性化・にぎわい創出
- ②子育て支援・女性の活躍支援
- ③健康づくり・生きがいづくり
- ④ひとづくり(人材育成)
- ⑤防災・減災対策
- ⑥コンパクトシティ形成

スポーツ科学部

美浜町をウォークラリー



2017年4月より「スポーツの力を人々の幸せに生かし、社会の発展に寄与すること」をミッションとしたスポーツ科学部がスタートしました。4月20日(木)にはス

ポーツ科学部の春季セミナーが開催され、196名の新入生が18グループに分かれて美浜町の体育館や保育所、駅や海水浴場といったスポットを巡りました。それぞれ10km以上のコースが設定され、道行く人に元気にあいさつをしながら仲良く歩く姿がみられ、教員と学生の距離が本当に近く、これから新しい学部でどのような学びが展開されていくのか、とても楽しみに感じられました。

国際福祉開発学部

「観光英語」フィールドワーク

5月25日(木)、東海市芸術劇場の和室にて「観光英語」フィールドワークが開催され、「茶道」の体験を通して、外国の方に、英語で「おもてなし」をできるよう学びました。

教員の山田さつき先生より、茶道について外国の方から受ける質問などレジュメを使用しながら茶道の歴史や、外国の方に対してどういったところに気を付けたらいいのかなどの説明をいただきました。学生たちは慣れない正座に悪戦苦闘しながらも、茶道に親しみ、「おもてなしの心」を学んでいました。



経済学部

経済学部の学生がパンのトラ安城店さんとコラボレーション！



今年も「パンのトラ 安城店」と経済学部の学生が協働し、商品開発を行いました。24時間テレビチャリティーイベントに合わせ、「チャリティーパン」と題し、地元食材を使用し、地元をアピールするにはどんなパンがいいのかを考え、2種類のパンが販売されました。東海市の「ふき」を利用した「きやらぶき」とエビフライ、八丁味噌を使ったものと、もうひとつは愛知県特産の「いちじく」を使用したものです。8月20日にはオープンキャンパスで試食会が行われ、その後、8月26日から27日にかけてパンのトラ 安城店にて36時間営業が行われました。その中で100円で販売し、チャリティーパンの売上の全額が寄付されました。日本福祉大学 経済学部の学生も販売に協力し、チャリティーイベントと一緒に盛り上げました。

子ども発達学部

ふくしコミュニティプログラム
「知多半島の文化」

2017年7月12日（水）、美浜キャンパス子ども発達学部の「総合演習Ⅰ」（1年生ゼミ）において、知多半島の文化を学ぶ合同講義が実施されました。学生達がこれから地域で専門的な学びを深めていくにあたり、地域を知る学習です。今回は、ゲスト講師として「常滑屋」代表の伊藤悦子さんにお越し頂き、知多半島の豊かな食材や産物、町の魅力や人の想い・歴史、また常滑屋ができた



「知多前」寿司を解説する伊藤さん

経緯や認知症カフェ等の今までの取り組みについてお話して頂きました。知多半島の文化を創り出していく姿を通して、一步踏み出すことの大切さを学ぶことができました。

看護学部

地域資源と人に合わせた地域
マネジメント

看護学部は「在宅介護方法論」において、地域にあるフォーマルサービス、インフォーマルサービスについて調べ、地域の社会資源の実際とケースマネジメントの必要性を学びました。4つの指定された地域とその地域での生活の事例についてグループワークを行い、それぞれ成果を発表しました。認知症高齢者やターミナル期の肺がん患者などが地域で生活するために、その人にあったサービスや社会資源、地域の概要を調べ、その地域に必要なとなる社会資源について考え、アセスメント能力を養いました。



23グループに分かれての発表

健康科学部

半田市亀崎地区にて日タイ三大学共同の「亀崎景観ワークショップ」を実施

日本福祉大学と椋山女学園大学、タイのスィーパトゥム大学と三大学共同で亀崎地区の景観ワークショップに取り組みました。訪日外国人から見た町の魅力や可能性をまちづくりに生かすことが狙いで、三大学から約40人が参加しました。タイの学生は亀崎地区のシェアハウスなどに滞在し、本学生と椋山女学園大学生とともに町歩きなどを通じて現地調査を重ねました。7月15日（土）にはクラシティ3階で最終発表会が開かれ、学生たちがインバウンドから見た亀崎の魅力向上の提案を発表しました。健康科学部福祉工学科の坂口大史助教は「地域の魅力を世界に発信することが求められている中、インバウンドの視点は重要。学生にとって国際交流の機会にもなる」と話されました。



模型作りに取り組むスィーパトゥム大学の学生ら



日本福祉大学は、「地域に根ざし、世界をみざす『ふくしの総合大学』」として、地域と連携をすることで、教育・研究・社会貢献の取り組みを展開しています。地域の拠点として、3つの「Cラボ」を設置して、地域連携を専門とするコーディネーターが学生や教職員の様々な活動を支援しています。

Cラボ東海

【第7回 東海ハンガアウト ～楽器 de ハンガアウト～】



村松愛子コーディネーター

5月30日(火)、「楽器deハンガアウト」として音楽活動などで活躍されている地域の方を招いて東海ハンガアウトを開催しました。経済、看護、国際福祉開発学部の学生、そして知多半島の各地、三河、尾張地区からご参加いただいた地域の方、あわせて35名程の参加がありました。楽器を用いた交流を行い、ギターやウクレレの弾き方や、オカリナ、鼻笛の吹き方を習ったり、様々な楽器を合わせて、即興コラボレーションを楽しみました。



音楽を通じた多世代交流



源平橋から船方橋エリアで開催

半田市の新たな観光資源に。半田運河Canal Nightを開催。

2回目となる今年は、8月18日(金)、19日(土)に半田運河周辺にて開催されました。半田運河の水面に無数の“ヒカリノ玉”がゆらゆらと浮かび、黒壁の建物に囲まれた歩道にはほんのりと“ヒカリノ道”が続きます。本学は半田市商工会議所や観光協会、半田市と協力し、実行委員会として実施しました。ボランティアやスタッフとして社会福祉学部や健康科学部の学生と職員が参加し、あわせて10名ほどがスタッフとして運営などに協力しました。

Cラボ半田



池脇啓太コーディネーター

Cラボ美浜

第3回 知多半島フィールドワークEXPO開催



廣澤節子コーディネーター

6月8日(木)、美浜キャンパス10号館コミュニティセンター1階で、第3回知多半島フィールドワークEXPOが開催されました。地域課題の解決に取り組む地域団体の方に活動を紹介していただき、学生・教職員との交流の場をつくることを目的に2015年度より開催されています。第一部では、団体の活動紹介が行われ、第二部では、ブースでの説明が行われました。

(参加団体:順不同) NPO法人Pakapaka、NPO法人SmileyDream、音吉を愛する仲間の会、NPO法人チャレンジド、美浜・南知多防災の会、おもちゃキャラバンボランティア「うみは」、一般社団法人アンビシャスネットワーク、音吉を愛する仲間の会、美浜町商工会青年部、知多巡り部、DoNabeNetにつぶく、はんだU22研究所、あかとんぼ、竜宮サロン学生ボラの会



13の地域団体の方に活動を紹介いただきました

ふくし・マイスター

【公開授業「COC・DAY」開催します！】

「知多半島のふくし」の公開授業として、地域で課題解決に取り組む方を講師に迎え、学生が日々学ぶキャンパスの所在地域の現状や課題への理解を深めるとともに、地域の方にもご参加をいただく機会とします。

■「COC・DAY」日程(開催日順)

- ・東海キャンパス テーマ:「まちにある空き家をどう活かすのか」
開催日時:2017年12月9日(土)12時40分～15時10分
- ・半田キャンパス テーマ:「半田市の歴史・学びに活かす」
開催日時:2018年1月25日(木)13時35分～16時05分
- ・美浜キャンパス テーマ:「発達障害児支援の取り組みと課題」
開催日時:2018年1月26日(金)13時25分～15時55分

詳細・お申込



「ふくしの拠点」
COC DAY
入場無料・事前申し込み必要
東海キャンパス | 12月9日(土)
半田キャンパス | 1月25日(木)
美浜キャンパス | 1月26日(金)
日本福祉大学全学教育センター

